

# 月刊反トマホーク通信

No. 39  
89. 1. 20  
定価 100円

〒150 東京都渋谷区渋谷2-5-9 パル青山502 トマ喰い虫社 ☎03(498)6095  
044(63)5101



ニュージーランド南島のワイホーバイでのスパイ通信基地建設反対集会で、建設予定地に置かれた家の模型  
(ニュージーランドで発行されている『ピースリンク』より。10ページに関連記事)

アピール

チーム・スピリットを止めるピース・スピリットを！

## 海軍戦略の危険性 (ウィリアム・アーキン)

各地から／ニュージーランド報告(最終回)／読者の声  
／ニューススピリット／ホットラインだより

### トマホークの配備を許すな！全国運動

●維持会員(月間会費)

団体 1口 2000円  
個人 1口 1000円

●参加会員(月間会費)

団体 1口 1000円  
個人 1口 500円

●通信会員

年間 1口  
2000円

あなたも仲間にも！(会費は本誌購読料を含みます)



ジョン・レーマンは、海軍長官として権勢をふるった六年間に、最近新聞を賑わせた汚職がらみの調達機関をはるかに上まわる危険な遺産を残した。レーマンが守り育てた攻撃的な軍事戦略によって、公海における挑発的な軍事衝突の機会が著しく増えたばかりでなく、そのような衝突が核戦争へと拡大する危険性もまた、はなはだしく高まっているのである。

# アメリカを沈没させるか？ 海軍戦略の危険性

ウイリアム・M・アーキン

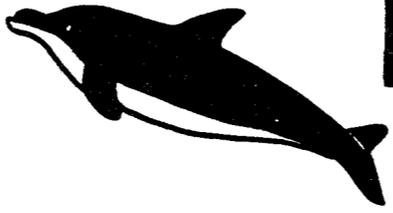
★「サンデー・スター・ブレティン&アドバイザー」(ホルル)一九八八・七・三より  
中見出しは編集部

がより厳格さを欠いてもいる。このような危険性の背景があるにもかかわらず、レーマンの任期を通じて追求されたいわゆる「海洋戦略」は、平時の作戦においてはたいそうに派手派手しく、戦争の目標もは

## 海洋戦略Ⅱ対ソ全面戦争計画

レーマンが海軍長官を退いてから、形勢は海軍にとって不利になっている。「六〇〇隻艦隊」を目指した八年ごしのもくろみは、予算削減のもとであえなく沈没してしまっただけで、今年度のフランク・カールツ国防長官は、今年度のたいへんな緊縮財政のもとで、軍への統制を再確認するために、象徴的なやり方で海軍の予算を削減せざるをえなかった。カールツ

が十六隻のフリゲート艦の退役を決めたとき、レーマンの後継者であるジェームス・ウェッブ海軍長官は、これに抗議して辞任した。しかし、海洋戦略ははたして変わったのだろうか？ レーマン後の戦略立案者たちは、この戦略はまだ生きており有効であると主張している。それは単に、悪い論評の犠牲になっただけで、現在も——もちろんこれまで



アメリカの海洋戦略は日本に重大な影響を及ぼした。ブッシュ政権になってこの戦略はどうなるのだろう。すでにレーガン政権末期、海洋戦略はより潜水艦活動に依存する方向に変わりつつあった。今日を占う論文をここに紹介する。筆者はアメリカ政策研究所の研究者であり、海洋の核軍拡競争について二冊の近著がある。

いう感じ。もっとたくさんのボートをだせたらいいですね」と熟年パワー満開。平和船団、大きく育てたいですね。二月八日には東京で「日本平和船団事務始メ」という集会をやりませう。ぜひご参加を！

## ピースリンクが 新発足

昨年、「ピーススピリット88広島実行委員会」を作り、ファイフとバンカーヒルの横須賀母港化に反対する運動を展開した呉、広島、岩国の市民グループが、新たに「ピースリンク広島・呉・岩国」を結成します。岩国・呉への核貯蔵の疑惑、トマホーク艦の入港による呉の核発射基地化のおそれ、そしてもし核兵器事故がおこれば…この被曝の地を覆う「核の三重苦」からの解放をめざして、はば広いネットワークと息の長い運動をめざしています。

## 日米共同演習に 抗議の声

滋賀・京都  
昨年十一月十九日から十二月一日まで、滋

賀県の陸上自衛隊饗庭野(あいばの)演習場で行われた日米共同訓練「びわ湖88」は、市民と労働者の大きな抗議の声につつまれました。今年の訓練では自衛隊がガンマ線・エックス線測定器などNBC(核・生物・化学)戦争用の装備をしていたことがわかるなど、より一層危険な内容のものとなっています。「トマホークの配備を許すな滋賀県連絡会」と「トマホーク阻止京都連絡会」は全国のグループ・個人による「共同声明」の発表をはじめ自治体への申し入れ、米海兵隊の経由地である石川県小松基地訪問、地元グループとの交流、そして現地での抗議と活発な行動を繰り広げました。

海外  
マニラで平和の  
短信② ための国際会議  
一月十一日から十五日にかけてマニラで「アジア・太平洋の平和と発展に関する市民会議」が三〇〇人の海外代表を含め三〇〇〇人が参加して開かれています。広島のYさんが参加しています。

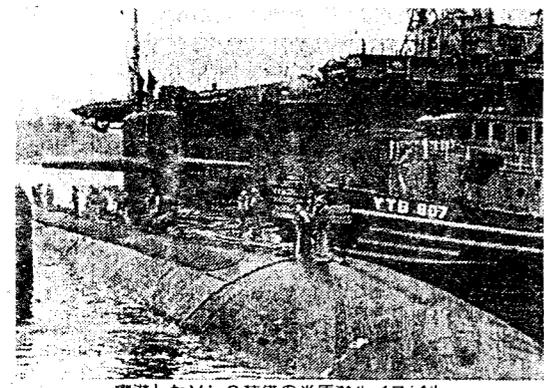


(十一ページ 下段から)

警戒を強めている。ニュージールランドに加えられたさまざまなアメリカの威嚇を体験しているだけに、太平洋の小国により露骨な形で加えられるアメリカの力に対して敏感にならざるをえないのだ。

ひるがえって日本の状況を見ると、海のみならず友人たちに対する関心の低さ、いやわれわれの海と土といのち自体に対する無関心さにながらんとさせられる。かくいうわたしも一年半前までは、想像力を海のみならず伸ばすこともなく、日本という閉塞された社会の中で孤独に絶望していただけだった。

最近ニュージールランドに滞在している日本人の友人から手紙をもらった。公園をはだしで歩いたり、道端でなつているスモモの実をそのまま食べたりにすることにも慣れましたと書いたあと、手紙は、「こういう自然の環境がこの国の人々の非核を求め心を育てたのだと思うようになりました。わたし自身、この国に住み始めて少し変わったような気がします」と結ばれていた。(了)



寄港したVLS装備の米原潜ルイスビル

ソ連本土の基地の破壊とソ連領土への侵攻、電子戦および電子妨害戦を通じてアメリカの目的に関する意図的な混乱を引き起こすこと——は、すべて紛争拡大へとつながる条件を作り出す。そうなれば核兵器を使用する可能性も出てくる。ソ連の非戦略的軍力を破壊するための極北地域における攻撃的な潜水艦作戦もまた、武装解除をめざす先制攻撃が用意されているという間違った信号を、危機機においてソ連に送り、そのことよって紛争拡大を助長する可能性がある。

海軍研究者たちが、海洋戦略の目的の重要性と、それが戦時に実際に遂行される可能性について、果てしなく議論しているあいだに、この戦略を遂行するためには、平時からの前進展開とすばやい決定が「戦争への移行」段階で必要となる。かつてレーマンのもとで海軍の作戦を指揮したジェイムズ・D・ワトキンス提督によれば、「特定の国際情勢が超大国の全面的な対決へと移行する可能性がある」と認識されたとき、海洋戦略の第一段階の引金が引かれるだろう」ということになる。ワトキンスはまた、一九八六年一月に、「戦争が始まったら動員のために残された時間はごく短いものになるだろう」と述べている。

昨年来、挑発的な海軍の機動演習は著しく減ってきている。しかしこの減少は、海洋戦略の終わりを示すものではけっしてない。そうではなくて、それは海軍の予算における作戦と維持の費用の削減と、他の艦隊にしわよせを生んでいるペルシャ湾やインド洋への配備レベルの増加、より見えにくい潜水艦活動への移行、の産物なのである。

海洋戦略の最新版は、攻撃型潜水艦にいつそう依存するものとなっている。海軍作戦部

(訳 S・N)

抑止を確実にする大枠の構造であることとに変わりはない、というのである。だが詳細にたずねてみると、海軍の情報筋は、若干のより攻撃的な側面——ソ連沿岸近くまで空母を侵入させたり戦略潜水艦を攻撃する作戦など——が、少なくとも内部論争の目的になっていることを認めている。

海洋戦略とは、ソ連との長期にわたる全面通常戦争のための海軍の計画である。一九八二年に採用されたこの戦略は四度の改訂を重ね、最新のものは二、三か月前に改訂されたばかりである。細部は常に変わっているし、艦隊指揮官たちは作戦を指揮するのにかんがりの自由裁量を与えられている。しかしその目的は、軍事衝突に際し海軍の先制攻撃力を利用することである。もし超大国間で戦争が始まれば、海軍は「機先を制し」、「守りにまわらなくてはならず攻撃し破壊する」ことが決められている。

この戦略のもとでは、海軍には主として三つの任務がある。まず、ソ連沿岸の潜水艦が公海に押し出す前にこれを攻撃すること、紛争を「水平的に」すなわち「地理的に」拡大しながら世界中でソ連の地上軍を釘づけにし、ソ連の兵力をヨーロッパや中東から流出させること、そして、できるだけ多くのソ連の弾道ミサイル潜水艦を破壊すること、である。

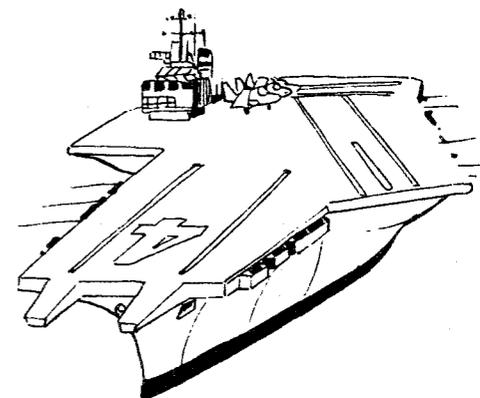
この戦略を遂行するためには、平時からの前進展開とすばやい決定が「戦争への移行」段階で必要となる。かつてレーマンのもとで海軍の作戦を指揮したジェイムズ・D・ワトキンス提督によれば、「特定の国際情勢が超大国の全面的な対決へと移行する可能性がある」と認識されたとき、海洋戦略の第一段階の引金が引かれるだろう」ということになる。ワトキンスはまた、一九八六年一月に、「戦争が始まったら動員のために残された時間はごく短いものになるだろう」と述べている。

潜水艦戦争の作戦副部長であったニルズ・R・サンマン副提督は、一九八五年の議会で次のように証言している。「海洋戦略にしたがって、わが方の攻撃型原潜、いわゆるSSNのほとんどは、ソ連との戦争の初期段階でただちに前進、ソ連の艦隊を撃沈し、その巨大な潜水艦隊を圧倒するよう要請されている。さらに現在では、トマホーク巡航ミサイルの出現によって、ソ連の地上基地を攻撃することも要請されている」。

### 攻撃型潜水艦の危険な役割

海洋戦略の最大の問題点は、緊急時に海軍、特にその攻撃型潜水艦が紛争拡大の一因とな

る可能性がある、ということである。海洋戦略の三つの目的——ソ連の戦略原潜の破壊、



長カーリッスル・A・H・トロスト提督は、一九八七年二月に次のような事実を明らかにした。すなわちアメリカの潜水艦は、「日常的に北極海に配備されており、そこで海洋戦略を援護して戦時戦闘や戦争計画を遂行するよう期待されている」というわけである。

ますます明らかになりつつあることは、レーマンの好戦的核政策の進展は、アメリカの外交関係も安全保障も高めるものではなかったということである。事実、ワシントンにおいても海外においても、昨今の海軍演習や戦略は、陸上の軍事行動にはない方法で国際的な平和に脅威を与えるものと見られている。

レーマン自身が一九八三年に議会委員会で述べたように、「地上戦と異なり、もしアメリカ海軍とソ連海軍の間の抑止が崩壊したら、それはただちに全面的な海軍戦争に発展するだろう」というのである。

# 反核ホット ライン

10

## だより

### 入港情報

(12・19)	ルイスビル(L級)	午前10時
(12・23)	ヒューストン(L級)	正午
(12・30)	ヒューストン(L級)	午前10時
(12・31)	バッファロー(L級)	午後2時

\* 昨1988年の各港への原子力艦の入港回数は、

横須賀	28回(うち原潜28回)
佐世保	6回(うち原潜6回)
ホワイトビーチ	11回(うち原潜11回)
計	45回(うち原潜45回)

(1・4) バッファロー(L級) 横須賀を出港

(1・9) ロサンゼルス(L級) 0時30分 ホワイトビーチに入港

年間四十五回!  
原潜入港最高を記録(88年)

1. 原潜の入港が過去最高の45回を記録した。その中でも沖縄は、87年以降急増し、88年は過去最多の11回を記録した。  
2. トマホーク搭載または疑惑艦は、10隻・35回(L級・5隻・23回、S級・4隻)

- 12回)入港している。
- 3. 洋上艦(原子力空母・原子力ミサイル巡洋艦)は、入港しなかった。
- 4. 垂直発射装置を装備した原潜(L級・ルイスビル)が初めて横須賀に入港した。
- 5. 入港の際、24時間を割っての事前通告急拠寄港の中止、出港を「運営上の都合」という理由で延期することが増加している。
- 6. 6月10日・12日の3日間連続して沖縄・ホワイトビーチに、ガーナード(S級)が30分間入港を繰返す異例なことがあった。

### 原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず 井8301、そして連絡番号 968・1071、次に暗誦番号 1071  
クロハ イレナイ

## にゅうす すけりあ 第三回

### 米軍リビア機を撃墜

高まるトマホーク使用の誘惑

全国運動情報コーディネーター

青木雄彦(京都市)

である。

1月4日、米海軍のF-14戦闘機が2機のリビア軍機を撃墜した。米政府の発表によるとこのリビア軍機がミサイルを搭載しており危険に晒されたため「自衛のため」攻撃を行ったという。しかしリビア側からはミサイルを発射した形跡はないから、米側の論理では近づいてくる戦闘機(ミサイル搭載が常識)はすべて撃墜してよいことになり、ソ連機に絶えずスクランブルをかけている自衛隊機(80年からミサイル搭載)などは撃墜されても文句が言えないことになってしまふ。

そもそも今回の撃墜事件の背景にはアメリカがリビアが化学兵器工場を建設中であるとして、この施設への軍事攻撃を示唆して緊張が高まっていたことがある。この施設が本当に兵器工場であるのかどうかも疑わしいが、軍事的に危険な施設を持っているというだけでそこを攻撃してよいという国際法はない。洩れ伝えられる情報では米国の同盟国でさえ米の軍事行動には「自重」を求めているよう

アメリカとリビアと云えば86年4月の米軍機によるトリポリ爆撃が記憶に新しいが、この際米機はイギリスから攻撃に加わったF-111が一機撃墜された。この時「貴重な人名を失った」反省から、アメリカ軍のなかで有人の航空機より無人の巡航ミサイル使用を好む意見が強くなってきた。イランゲート事件のノース中佐などはトマホークの心酔者で、リビアやシリアなどにこのミサイルを使うよう進言していたという。

トマホークは核弾頭付きのもの(TLAM/N)のほかに、通常弾頭で艦船を攻撃するタイプ(TASM)と陸上施設を攻撃するタイプ(TLAM/C)がある。いずれも米海軍の所有で水上艦・潜水艦から発射される。通常弾頭のもの射程が短い(最大でも千数百km)が命中精度は高い。ゲリラや「テロリスト」の拠点を急襲するには最適(場所が特定されている場合)の兵器であると考えられている。トマホークはまだ実戦で一度も使われ

たことがなく、米軍としては「稽古台」としてリビアを格好の相手と考えているようだが、現在のところ86年の時よりアメリカに対する国際世論は厳しい。

もともとトマホークは全面核戦争から対ゲリラ戦までのほとんどあらゆる戦争に対応できる数少ない兵器である。シーガン政権は二期目になって第三世界の紛争に積極的に「攻勢」をかけるいわゆるLIW(低強度戦争)戦略を打ち出してきたが、沖縄などに駐留する海兵隊やグリーンベレーと共にその主役を務めるのがトマホークである。日本が今対ソ核戦争の最前線であることは言うまでもないが、米海軍・海兵隊(これが第三世界介入のための主役)の世界最大の拠点国でもあることを意識する人は少ない。

日本から行われる米軍の戦闘作戦行動は本来、いわゆる「事前協議」の対象のはずだがこれが有名無実化した現在、アメリカの軍事行動を制約する制度上の保証は何もない。安保条約に反対の人達が米軍基地撤去の要求を強めるのは当然だが、安保が日本の安全を守ると信じている人達こそ、この地中海での軍事行動を対岸の火事視しないで、日本の基地が一体何のためにあるのかを、最近の米軍の行動と照らし客観的かつ深刻に考えてみるべきでないのか。(一九八九・一・一三)



軍需品の契約に余念のない両国首相

所に、スパイ通信を目的とする基地建設が企てられているが、これに対しては特に女性を中心にした反対運動が大々的に行なわれ、全国民の関心をひきつけている。今年二月に行なわれたはじめての大規模なワイホーパイ反対キャンペーンには、いかにもニュージーランドらしく大勢の家族づれキャンパーや女性たちが集まった。彼らは建設予定のスパイ用パラボランテナと同じ大きさの巨大なビースマークの地面に描き、その中に基地建設にかかる予算で建てられる三六六戸の家の模型を置いて、基地の無用さと予算の平和産業への転換をアピールした。

去年の十二月十三日の午後四時少し前、テレビで原潜ルイスビルが横須賀港に入港したというニュースを見た時、思わず身の毛がよだつ様な恐ろしさを感じ、これまでの経過や詳しい事情はさほど知らないままに、今回のこの原潜の規模はたまた事ではない、明らかに私たち日本人の生命をおびやかす危険性の高

それというのも、私の中にあるアメリカ政府のイメージが大変な、戦争・戦闘好き集団であり、たちの悪い軍事関係者中心の政府という印象で固められているからです。現にレーガン政権の過去八年間の軍拡路線とそれに伴う貿易赤字の増大には、許しがたいものがあり、発足時の始めから今日の終わりにいたるまで、あらゆる裏工作と悪事とで埋めつくされていると思うからなのです。毎日新聞を読むのが恐ろしいほどの、ここ数年の米軍による世界中での事故。例えばイージス艦のイラン機撃墜事件、西ドイツ上空での米軍機の墜落事故、日本近海での米軍による巡視船への発砲事件など、その他にも数知れずの事件

# 非核の国

## ニュージーランドの草の根平和運動

(5) ——— 最終回



山田紀子

非核法が一九八七年に成立したことによって、ニュージーランドは名実ともに「非核の国」となったが、ここに至る道のりも決して平坦なものではなかった。

### ようやくかちとった非核法

そもそも現労働党政府は、一九八四年の総選挙で「核艦船拒否、国の非核化」を公約に掲げて政権についたのだが、その後陰に陽に加えられる外庄(特に米・仏からのもの)に影響され、非核法案の国会への上程が大巾に

遅れたばかりでなく、八六年三月に予想されていた採択も延びに延び、八七年六月、次の総選挙のまぎわになってようやく成立にこぎつけたのであった。

「自分たちが選んだ労働党政府とはいえ、非核法を通させるのは一筋縄ではいかなかった」と、ダニーデンの平和活動家ジム・チャブルさんは苦笑まじりに語っている。「わたしたちは労働党が政権についた次の日から、非核法を早く通せという働きかけをロンギ首相と議員たちに対して始めた。彼らははるばるず法案を先延ばしにしようとする。実際、非核法を成立させるまでに、どれほどロンギを押しついたり、ときには蹴とばしたりしなくちゃならなかっただろう」。そう言ったあとにジムは、「もし総選挙前に非核法が成立しなかったら労働党は負けていたかもしれないし、そうならわたしたしどこへ移住したらよかったんだい?」と片目をつぶって見せた。

### 新たなたたかい

「難産」ではあったものの、ニュージーラ

### 太平洋でつながる日本とNZ

フィジーをはじめ太平洋諸島の動きも、今後ますます目にはなせなくなりそうだ。ニュ

### 読者から

ルイスビルの入港に、思わず身の毛のよだつような恐ろしさを感じて

富田はるみ

東京・主婦

私、富田はるみ、三十八才、高一の男子を持つ母親で主婦です。一九八五年八月から一九八七年十二月末まで主人の駐在でブラジルのサンパウロ市に住み(それ以前は静岡県浜松市ですが)、一九八五年一月から子供の高校入学のために目黒区に住むようになって、早一年がすぎました。

い代物である、といかにもじっとしていられない気持ちになりました。

ニュージーランドの草の根グループ(平和・有機農業・少数民族・自然保護など)との交流を進める目的で、「ニュージーランド・ネットワーク」を発足させます。三月四日(土)、二カ月のニュージーランドの旅から帰ったばかりの方を招いて、第一回例会を開きます。詳しくは頁〇四五(四九一)三二四八(午前のみ)仙田まで。

### 会計報告

(88.12.14 ~ 89.1.16)

#### 〔収入〕

○前月からの繰越	△221,246
経常繰越	154,754
借入金繰越	△376,000
○今月の収入	324,950
会費収入	178,000
内	
維持団体	76,000
維持個人	35,000
参加団体	12,000
参加個人	27,000
通信会員	28,000
カンパ収入	109,000
在庫品売り上げ	6,300
反核ホットライン	
売り上げ	31,650

#### 〔支出〕

●今月の支出	△277,261
家賃(1月分)	40,000
水道光熱費	5,588
電話代	7,803
郵送費	32,690
事務用品費	9,200
印刷代	22,800
行動費	16,100
郵便振替手数料	2,080
アセスメントする会へ	
移動	15,000*
借入金返済	126,000
●次月への繰越	△47,557
経常繰越	202,443
借入金繰越	△250,000

\*アセスメントする会への送金が誤って算入されていたので、正しました。

・事故は、一つにはアメリカの技術力低下とも関連があるのでは、とも思いますが、倫理上も、大変な非難されるべき問題だと思えます。米政府そのものが大変欠陥の多い人員で構成された集団であると思うのですが、先頃の大統領選挙で再び保守党である共和党のブッシュ候補が選ばれた時には、まともやこの選挙そのものも、何か保守集団の裏工作により仕組まれたものではないかという危ぐと、今後の軍拡路線が相変わらずであろうという絶望感を持ちました。皆様はいかがお感じでしょうか。

\*

\*

ソ連の積極的軍縮ムードの中で、いまだに核抑止論などという古い思考をふりかざして

軍拡の手をゆるめようとしないう、今やまぼろしとなってしまった超大国?アメリカと自身の自主的思考能力ゼロの全面的無条件アメリカ支援グループと見られる日本政府。この二つががっちり手をたざさえ合っているのだから、リクルート疑惑も日本国内のみでなく日米政治集団の軍拡路線のための疑惑事件以外の何者でもないと思うのですよね。

したがって、日米安保条約が破棄されない限り日本国内における米軍基地の軍事強化は着々と進む一方であり、われわれ国民はなすすべもなく税金を軍事費につぎ込まれる様を見届けるだけ。この愚行、蛮行を何とかしよう。何とかくい止める手だてはないものではないでしょうか。

ところで、十二月十三日のトマホーク艦入港のニュースは次の日の朝日新聞にはどこにも掲載されていませんでしたが(私は朝日のみをとっておりました)、共産党の新聞には大変詳しく載っていました。それと、この反トマ通信も、その内容の詳しさはもちろんのことですが、

今後ますますその活躍に期待し、何かしら一緒に運動に加われたら幸いです。高一の息子にも、世界平和と地球環境保全に手助けできる人間に成長してほしいと思っています。一九八九年(元号は使いたくない)は、何かしら平和への第一歩を期待したいですね。☺



### 月刊反トマホーク通信 第二十九号

一九八九年一月二十日発行(通巻四十号)

\*発行  
トマホークの配備を許すな! 全国運動  
〒一五〇 東京都渋谷区渋谷二一五―九  
バル青山五〇二 トマ喰い虫社

◎三(四九八)六〇九五  
◎四四(六三)五一〇一

\*編集 反トマホーク通信編集委員会  
\*定価 一〇〇円(通信会員年間二〇〇円)